

なぜ丸型のスポットブルーディングを準備 するのか？

- 適切な育雛準備によって、ヒナに可能な限り最高のスタートを切らせることは、その後のウエルフェア、斉一性および成績のための膜となります。
- スポットブルーディングでは食欲と摂食行動の発達を最大限にするため、早期にヒナの行動をコントロールするためのチックガード(囲い)とヒナが好みの温度を選択できるように局所的な熱源を使用します。
- スポットブルーディングはまた、異なる母鶏群の週齢からのヒナを別々に育雛でき、グレーディングのための計画を容易にしてくれます。



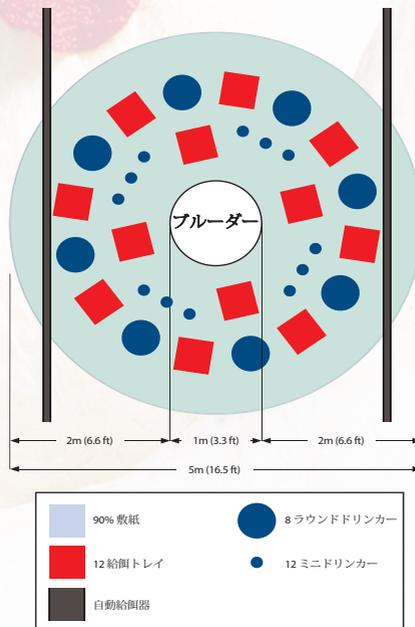
丸型のスポットブルーディングの準備方法

水洗消毒され衛生的で、最低2~5 cm(0.8~2 in)の深さの敷料が均等に広げられている乾いた鶏舎に入雛します。

必要なもの

1. 育雛域を囲むために十分な、高さ約50 cm(20 in)のプラスチック、ダンボールまたは木製の囲い
2. 各育雛域の中央に設置できるブルーダーや局所的なラジエントヒーター
3. 深さ約2~4 cm(0.8~1.6 in)の飼料を入れるプラスチック製またはダンボール製のトレイ
4. ミニドリンクー
5. ラウンドリンカー
6. 温度を測定する温度計
7. 相対湿度(RH)を測定する湿度計
8. 照度計

丸型のスポットブルーディングの準備



方法

09

ステップ1 必要な育雛域の適切な大きさを計算する。最初のヒナの収容密度は40羽/m² (4羽/ft²)とします。育雛域の広さは、熱源の出力によっても決まるでしょう。ブルーダーの熱量と配置については、メーカーの推奨を参照してください。

ステップ2 自動給餌器(パンまたはトイ)および給水システムを床に降ろす。機械システムが倒れたり、ヒナが逃げないように、計算された育雛域の周りに囲いを固定して設置します。

ステップ3 育雛域の照明のスイッチを入れる。育雛域の照度は、床の高さで80~100 lux (7~9 fc)であるべきです。

ステップ4 床からの高さについてはメーカーの推奨に従い、ブルーダーまたはその他のラジエントヒーターを育雛域の中央に設置する。

ステップ5 育雛域に備品を設置する。

- 敷紙を育雛域に敷きます。熱源の直下(育雛域の約10%)は、敷紙を敷くべきではありません。
- 残りの備品は、敷紙を敷いた育雛域の上に均等に置きます：
 - ヒナ1,000羽当たり最低8個のラウンドドリンカー
 - ヒナ1,000羽当たり12個のミニドリンカー
 - ヒナ80羽当たりプラスチック/ダンボール製の給餌トレイ1枚

ステップ6 温度計と湿度計をヒナの高さになる様に、育雛域の端に設置する。

ステップ7 ヒナが到着する約48~72時間前(外気温/時期によって異なる)には、育雛域を約21℃に暖めるため、ブルーダーのスイッチを入れるべき。

ステップ8 ヒナが到着する24時間前に、下記の推奨する入雛時の環境コンディションになるように育雛域内の温度を上げる。

- 30℃/86°Fの温度(ヒナの高さで測定)
- 28~30℃(82~86°F)の床面温度
- 60~70%の相対湿度

これらの測定は、ブルーダーの端から2 m(6.6 ft)の位置で記録すべきです。スポットブルーディング中に生じる温度勾配により、ブルーダーの端の温度は上記よりも高くなり、ブルーダーから離れた場所の温度は若干低くなる可能性があることに注意します。

ステップ9 ヒナが到着する直前(1~2時間前)に、補助給餌トレイおよび育雛域の少なくとも90%に給餌エリアとして敷いた紙の上に、飼料(篩にかけられた良質なクランブルまたはミニペレット[直径2 mm/0.6 in])を撒く。



ステップ4



ステップ4



ステップ5

ステップ10 自動給水システムのスイッチを入れ、フラッシングを行い、清潔で新鮮な水で満たされていることを確認する。追加のミニドリンカーを入れます。ヒナに与える水の温度は、約18～21℃/64～70°F (ドリンカーで)にすべきです。

ステップ11 ヒナを優しく降ろし、育雛域全体で均等に分散されるようにする。

ステップ12 モニターと記録をする。

- ヒナの高さで温度の確認と記録を行います—必要に応じて調整します。
- 鶏舎内の相対湿度の確認と記録を行います—必要に応じて調整します。
- 照度と光の均一性の確認と記録を行います—必要に応じて調整します。

結果の見方

ヒナの行動をモニターします。

ヒナ：

- 均等に広がっている
- 摂食している
- 水を飲んでいる
- 休んでいる
- 気持ちよく鳴いている



快適

必要なアクションは無し

ヒナ：

- ブルーダーの下に
集まる／群がる



寒がっている

必要なアクション

温度および/または相対湿度の確認と調整

ヒナ：

- 育雛域の周囲に広がる
- 静か



暑がっている

必要なアクション

温度および/または相対湿度の確認と調整

結果の見方

スポットブルーディングの準備が正しいかどうかを確認するために、以下も評価すべきです：

- クロップフィルークロップフィルが目標値を下回っている場合、ヒナは飼料と水を見つげられておらず、将来の鶏群成績に悪影響を及ぼす可能性があります。不十分なクロップフィルは、育雛準備が不適切である可能性を示しています(種鶏管理How To「クロップフィル調査」参照)。
- 肛門温度—環境条件が適切でヒナが快適であれば、肛門温度は39.4～40.5℃であるべきです(孵卵 How To「ヒナの快適さチェック」参照)。
- 減耗率—予想より高い場合。
- 7日齢の体重—指標より低い場合。

上記の目標が達成できなかった場合に考慮すべき事項：

環境

- ヒナ到着前の鶏舎のプレヒーティング
- 育雛域の一般的な環境：
 - ヒナの高さでの温度
 - 敷料温度
 - 相対湿度
- 育雛域の照度
- 換気量と空気の流れ

飼料と水

- ヒナが制限なく飼料と水にアクセスしているか？
- 給餌エリアは育雛域の少なくとも90%を占めているか？
- 給餌給水スペースは適切であり、補助給餌器と補助給水器は適切な数を設置しているか？
- 飼料は少量ずつ頻繁に補充されているか？最初の3日間は、1日の飼料給与量を5～6回に分けて少量ずつ与えるべきです。
- ミニドリinkerを使用しているか？